

## 平成29年度 第1回京丹後市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会

1. 開催日時 平成29年11月10日（金）午後2時45分～午後4時00分
2. 開催場所 京丹後市役所205会議室
3. 出席者 森迫 清貴委員（委員長）、中谷 真憲委員、芦田 慎哉委員、中村 俊彦委員、山崎 高雄委員、前田 尚委員、吉田 和男委員、野村 幸宏委員、田中 寛明委員、高橋 公一委員、後藤 義邦委員（代理：岡安 昇様）、宮川 優委員、佐藤 由美委員（代理：安田 宏光様）、上田 美知子委員、森本 賢一郎委員、尾瀬 崇委員、安井 美佐子委員、平林 巧委員（以上18名）  
欠席者 沖田 康彦委員（副委員長）、和田 達典委員、長濱 孝次委員、松本 博之委員、寺田 昭夫委員、（以上5名）
4. 次第
  - ①. 開会
  - ②. あいさつ（梅田副市長）
  - ③. 委員紹介
  - ④. 議事
    - （1）京丹後市まち・ひと・しごと創生総合戦略について（平成29年3月改定版）
    - （2）平成29年度予算事業について（※人口減少対策関連事業を中心に）
    - （3）平成28年度京丹後市まち・ひと・しごと創生総合戦略（KPI）の進捗状況について
  - ⑤. 意見交換
  - ⑥. 閉会
5. 主な内容  
新井総括監：会議を始める前に、事前にお配りさせて頂いているものから、本日3点差し替えがありますのでお願いします。席次表と委員名簿、資料3をお配りさせて頂いております。よろしいでしょうか。
  - ・次第
  - ・席次表
  - ・委員名簿
  - ・資料1 京丹後市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成29年3月改定版）

- ・資料 2 平成 29 年度一般会計当初予算の概要
- ・資料 3 「京丹後市まち・ひと・しごと創生総合戦略（K P I）」の進捗管理表

以上が本日の資料でございます。漏れはございませんか。

それでは定刻となりましたので、始めさせて頂きたいと思います。本日は各委員におかれましては、ご多忙にもかかわらず、第 1 回京丹後市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会に出席いただきまして、誠にありがとうございます。

私は、本日会議の進行をさせて頂きます企画総務部の新井と申します。どうぞよろしくお願い致します。

#### ■あいさつ（副市長）

新井総括監：それでは、第 1 回京丹後市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会の開会にあたりまして、副市長の梅田よりご挨拶申し上げます。

梅田副市長：皆様、こんにちは。本日は、第 1 回京丹後市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会を開催いたしましたところ、公私ともに大変お忙しい中をお集まり頂きましてありがとうございます。皆様方におかれましては、日頃より京丹後市の様々な活動、また場面を中心にご指導、ご協力を頂いておりまして、心よりお礼を申し上げます。

また、本年 3 月に総合戦略についても改定をさせて頂くにあたりまして、色々とお力添えを頂きましたことを委員長様をはじめ、委員の皆様にお礼を申し上げたいと思います。本市の総合戦略の肝でもございます、人口減少にブレーキをとということもございますが、すでにご案内のとおりでございますが、27 年度実施の国勢調査におきまして、本市はだいたい 55000 人という人口でございましたが、前回の国勢調査に比べましたら 4000 人くらい減少となっております。その後も住民異動のデータを見ておりますと、少し減少のスピードも速くなっている現状もあるということもございます。本日はそういった事も含めまして、29 年度の総合戦略について現在進めております、人口減少の対策事業、それから 28 年度の実績に対する事業評価についてもご審議を賜りたいと思います。皆様方におかれましては、日頃色々な活動をしておられることでありますので、色々な知恵を拝借できればと思っております。有意義な会議になりますようにどうぞ宜しくお願い致します。

#### ■委員紹介および委嘱通知書交付

新井総括監：ありがとうございました。それでは議事に入らせていただく前に、「京丹後市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会委員名簿」をご覧頂きたいと

思います。今回参加をして頂いている各団体様、役員の人事異動等ございまして、4名の方が新たに委員に就任いただくことになりましたので、事務局よりご紹介させて頂きたいと思っております。

順番に所属とお名前を読み上げますので、恐れ入りますがご起立のうえ一礼をいただければと思っております。よろしくお願いいたします。

但馬信用金庫 田中支店長様でございます。日本政策金融公庫舞鶴支店 高橋支店長様でございます。京丹後市 PTA 協議会 家庭教育委員長の佐藤由美様ですが、本日は代理の安田様です。京丹後市区長連絡協議会 幹事の森本様です。

ありがとうございました。本来でしたら、お一人ずつ委嘱通知書を交付させて頂くべきところですが、時間の都合上、席上配布に代えさせていただきますいと存じますので、ご了承賜りますようお願い申し上げます。

なお、委員の皆様のご紹介は、委員名簿の配布に代えさせて頂きたいと思っております。

#### ■委員長あいさつ

新井総括監：それでは、ここで森迫委員長様からご挨拶を頂きたいと存じます。

森迫委員長：失礼します。委員長を仰せ付かっております京都工芸繊維大学副学長の森迫と申します。宜しく願い致します。議論の中で参考になるかもしれませんので、私の大学の取組みを少しお話をさせて頂きたいと思っております。京都工芸繊維大学ですが、名前のおり繊維がついておりまして、昔から北京都と縁が深い大学であると我々は思っていたわけですが、数年前にちょっと気が付きますと北部からの入学生が少ないということに気がつきまして、京丹後市様とは京丹後市様が発足以来のお付き合いということがございまして、北部でできることはないのかということを考えて、結果として福知山にキャンパスを開かせていただくということになりました。こちらは、ただ今改修中ですが、来年の今頃には、学生がこちらに来てインターンシップとか地域課題の PBL を工学的な観点で取り組むという形になります。人数は 30 名程度で、これが未来永久的に続くということでございますので、そういった意味では大きな一歩になるのかなと思っております。それと同時に、前の審議会でお話がありましたが、丹後全体としてという視点をもっておりまして、皆様ご存知かどうか分かりませんが、網野に本学の京丹後キャンパスがございまして。ここは宿泊も可能ですので、他大学の方にも使っていただいておりますし、本学でも年 1000 人を超える学生と教職員が来ております。それと福知山キャンパスができる。それと今年の 3 月竣工予定で、綾部市の駅前京都府が振興センターというものを持っておられますが、その改築と本学の地域連携室が開設されることとなります。ですので、我々としては常に

意識としては綾部市、福知山市、京丹後市というこの三角形の地域全体と言いますか、広域的な視点で物事を考えております。拠点的に 1 点だけということではなくて、面的に考えているということをご理解いただきたいと思えますし、地域創生テックプログラムというプログラムが 30 名なのですが、地域枠というものがありまして、京都北部の高校から優先的に受入れているのが 16 名だったと思います。それが定員一杯にはなっていないのが残念な話なのですが、11、12 名が入っております。かつ、日本中から地域のことに興味がある方が入ってきておりまして、トータルで 30 名いるということです。彼らが今 2 年目ですので、全員と個人面談をしております。それは福知山に行ったら住まいはどうするのか、ということをお聞きしないと、大学側でどういった手当をすれば良いかわからないということと、どういったところでインターンシップをしたいかということをお聞きしています。良い話としては久美浜出身の峰山高校の学生が、建築を専攻してやっておりますが、地元に戻りたいと明確に言われています。峰山からは地域テック以外からも入っている子がおられますが、そういった話をされております。それからお父様が丹後技研であるという子もおりまして、将来的にはこっちに帰って仕事がしたいということです。なので、やはりしっかり U ターンの道を示してあげると必ず意識がそっちに向くということは明確な話だということがよくわかりました。あえて、彼らは外へ出たいと思っていないですし、京丹後キャンパスで夏休みに地域 PBL をやるのですが、その時には京丹後市様と京都北部 5 市 2 町です。そこからテーマを頂きまして、それを 3 日間やります。そうすると地元への意識がすごく高まります。関東から来た学生が、完全に今、京都北部にはまっている子がおります。北部によく来ていて、どうしてこっちに来るのか、何回来ているのかなど聞くと、こっちで就職したいなど言い出しています。今 2 年生なので、その気持ちはどこまでもつのかなと思うところですが、そういった事を繋げながらやっていければと思っておりますし、10 年後で帰ってくる人を見ますと、1 年間に学生が 10 人帰ってくるとしますと、10 年後には 100 人、20 年後には 200 人となります。彼らには家族もいるでしょうし、結婚して誰かを転入させることもあるでしょうし、長い目で見れば人口減少にブレーキをかけるということに少しはお役に立てるかなと思っております。なにぶん、来年度 2018 年度問題が大学で一番の問題になっております。2018 年からは新卒の高校生が減り始めます。それに対して、我々も色々な手を打ちながら、地元の人を逃がさないというすごく大切な施策として考えております。この場を借りて、そういった事もお願いしたいと思っております。では今日は活発な御意見、ご議論を頂ければと思います。宜しくお願い致します。

## ■議事内容

新井総括監：ありがとうございました。それでは、今後の議事進行につきましては森迫委員長にお願いしたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

森迫委員長：それでは議事 1、平成 29 年 3 月に改定された「京丹後市まち・ひと・しごと創生総合戦略」のご議論頂きましたものの説明と議事 2 の平成 29 年度予算事業の説明を事務局からお願いしたいと思います。

近藤統括官：【資料 1「京丹後市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成 29 年 3 月改定版）」と資料 2「平成 29 年度一般会計当初予算の概要」の説明】

森迫委員長：ありがとうございました。資料 1 が戦略のまとめたもので、それに従って本年度に実施している一般会計当初予算の概要ということでご説明を頂きました。この委員会としては、PDCA 的に言えば、来年度の指標、予算に向かってという風に思いますので、時間の無い中ですが、皆様の御意見をお伺いしたいということでございます。時間に限りはございますが、できるだけ多くの委員の方からの御発言をお願いしたいと思います。特に指定というのとはございませぬので、できるだけ積極的な御発言をお願いしたいと思います。宜しくお願い致します。

安井委員：予算の中に子どものもので 3D プリンター購入とありますが、それはどういったことなのかということと、それからこの間私、交流人口を増やすこと、観光ということで、相楽の婦人会が京丹後に来られました。何か体験することがありませんかということで、ハンカチ 1 枚染めても千円かかるしということで、丹後王国の七姫劇団の舞を見て頂きました。本当に感動して頂いて、本当に素晴らしいものでした。40 分間誰一人話をするわけでもなく、手をたたくわけでもなく、瞬きもしないくらい見入った太鼓と踊りです。踊っている人も感極まって泣くほど、素晴らしい舞でした。あいにく雨が降りましたので、外ではできなかったのですが、素晴らしいものなので、あれをもう少し活用されてはどうかと思いました。その後は、一緒に食事をして交流を深めたといった事でしたが、大変喜んで頂いて帰って頂きましたので、是非今後、活用していかないと、もったいないと思いました。3D プリンターは、誰でも遊べるような、そういうものだったら楽しいじゃないかと思いましたので、どういったものなのか説明をお願いします。

近藤統括官：ご質問は TANGO 子ども未来プロジェクトという形でございます。今日は商工観光部がないので、詳しいことまではご説明できないのですが、ここに載っている通り、やはり今、京丹後市の周辺等含めて、人材確保ができないという問題意識がありまして、その中で丹後機械工業組合様が、熱心に学校側とコンタクトと取る活動をされておられます。その中で、小学校から高校生の間にもものづくりの楽しさですとか、地域の企業との繋がりを持ってもら

おうということですね。そういう関係を作りたいという話があります。その中で、ものづくり企業となりますと丹後は機械金属業が盛んですので、学校に出前させて頂きまして、3Dプリンターと言っても色々と種類やレベルがあると思いますが、丹後でも最先端の技術でものづくりができるのだよ、こういった事ができるのだよということを体験していただくことによって、子ども達にもものづくりへの関心を更に持っていただくということです。3Dプリンターで、どういったものを作っているのかなど、そういった事までは把握できていないのですが、ものづくりを身近に感じて、企業を知ることによって、いずれは帰って就職するとか、そういったところにつなげたいというのが背景です。

安井委員：子ども達だけではなくて、一般にも出前講座をして頂ければ良いなと思います。

きっと私たちのものづくりに対する認識も変わるのではないのでしょうか。大事なことだと思います。そして、楽しくて面白そうじゃないですか。その辺は予算を取って頂いて是非お願いしたいです。

新井総括監：少し補足ですが、丹後機械工業協同組合様と京丹後市が一緒になって、この夏でしたかね。子ども達への工作教室を実施させて頂きましたし、子ども未来プロジェクトは先月でしたかね。久美浜小学校に行かれて、子どもたちを将来田舎に帰ってこさせたいという気持ちがありますので、ものづくりの楽しさを知ってもらい、こんな企業があるということを知ってもらいという取組も頑張らせて頂いているということです。

森迫委員長：ありがとうございました。来年度予算に反映されるかもしれませんね。

芦田委員：すいません。この場で発言しようかすごく迷っていたのですが、総合戦略は、全ての分野において、真剣に考えられていると思うのですが、これで本当に人口減少が止まるだろうか、止まるまで何年かかるのだろうかと思っていたのです。こういった場でこんな事を言うのもどうかと思ったのですが、具体的に人口減少に歯止めをかけようとする、20代30代の子どもを産める年代の女性の方がどれくらい京丹後市に住んでくれるかが非常に大きいと思います。そのところに特化して、その年代の人たちが移住したりUターンしたり、出産子育てが安心して出来て、その方々がまた経済的にも十分成り立つような仕事があつてということだと思うのです。実際のところ。そのところをもう少し具体的にと言いますか、そこにスポットを当てた政策とか、その辺をしっかりと計画をしていかないと、実際のところ人口減少はなかなか止まらないのではないかなと思います。

近藤統括官：ご指摘頂いたとおりでと思います。確かに女性の方がこちらに来られて、安心して生活できる、子育てできるというのが一番だと思いますし、それはご指摘の通りでございまして、事務局で人口動態を調べておりましたも、女性

のほうが、男性よりも高校卒業後に市外に出る人数が多いという統計結果が出ています。それで戻ってくるのも、実は男性のほうが早くに戻ってきて、女性は結婚して戻ってくるとか若干遅れて戻ってくるという傾向になっております。それと、未婚率が高いということが出ておまして、この先、生活していく中で収入面、子どもを産んでも仕事が出来るとか、その辺りがきちり整理できていなかったら、将来に向けて安心して生活できないと思いますので、そういった面で改めて収入が低いということを言われることも多いと思いますが、そういった意味でも、共働きでもきちり生活していけるような子育て支援施策や、保育園でも民間のサービスを取り入れて、非常に柔軟に預かっただけの体制とかそれぞれのライフステージで施策は進めておりますけれども、先ほど言われたように、そこでしっかり女性たちに、これがあるから安心だと分かるような施策を示しながら、充実させていけたらなど考えております。

森迫委員長：どうでしょうか。中谷先生、京丹後未来ラボの取組でUIターン等若者を対象にした取り組みを行っておられるのですが、その辺のところを少しご紹介頂ければと思います。

中谷委員：今のお話にも関わりますが、単純に出生の数だけ増やしていこうということをお考えれば、あくまで極端な話ですが、例えば第3子が産まれたら1000万円を支給するとかいう施策、そういう政策は確かにあり得るのです。これを日本全体で行うとなると、それなりに意味が出てくる可能性はありますが、どこかの地域だけでやるとなると、それ以外の地域が劣っていくということも考えられます。もう一点は、その町で生まれた子がよそに行かずに、ずっとそこで定着してくれたらということもありますが、単純な作戦ってなかなかやりにくいわけです。そう考えると結局、生まれるところと定着していくところの両方を支援していかないとなかなかうまくいかないということです。京丹後未来ラボで特に考えている3つの柱があるのですが、若者に焦点を当てておりますので、未来ラボ自体が若い人たち、特に独身同士ですので、そこに出入りしていくうちに、出会いの場も出てくだろうと考えているということもあるのですが、何より価値観、或いは都会の生活が色々な豊かさがあるって楽しい、田舎の生活は単色でおもしろくないという価値観をひっくり返したいということが根底にすごくあるのです。実際に未来ラボに来ている人をみていると、Uターン者Iターン者のほうが6割になっていて、彼らは敢えて来ているのです。つまり、彼らは京丹後に来て都会の暮らしよりも願いが叶っていく体験をしている。こっちのほうが生活コストが安い。時間も使える、稼ぐ手段も様々に組み合わせていきながら、自分達の中で創造できている。そういうことが分かっているらしいので、こういう生き方もあるのだよということを10代20代を含めて

しっかり発信をしていく必要があります。そうすると、それを見ていた上の世代も 10 代 20 代も、そうか、田舎でこういうことをしていけば、しっかり暮らしていける、しかも楽しいことが分かっていくという仕掛けを何か作りたいということが根底的な考え方です。実際、未来ラボをやってみて楽しいです。皆様も是非一度来てみてくださいというか、遊びに来てください。若い人たちが中心なのですが、あんなも活発に議論している場はなかなか無いですし、色々なアイデアが毎回毎回飛び出してきます。そこから既に、今も申し上げたような、この田舎ならではの京丹後ならではの理想というか、これを人にやらせていたらもったいない。自分達で創業してやっていこうという機運やアイデアが生まれておりますし、実際にもう社団法人を作っちゃったりしております。そういう人も出てきていますので、要はそういうことまで考えていた人がばらばらにいた存在だったので、ここにもいるよ、あそこにもいるよという形で、つないであげて、それに引っ張られてピッチと言うのですが、軽く自分達がなんとなくやりたかったと思うアイデアをその場で投げてみると、ワーッと本当に色々な反応が返ってくるのです。反応が返ってきて、それで実際出来るのかということになるのですが、それは出来るようになるのです。実際にやろうということ今走りだして、自分達の考えた新しい事業も動いて出てきているわけです。こんな事を対外的にきちんと見せてモデル化していくのは大事だなと思っております。確かに色々課題もあると思いますが、こういった地道な政策を併せて取り組むことはすごく面白いし、大事なことだなと思っております。

森迫委員長：ありがとうございます。人材育成と言いますか、こういう取組みは成果が現れるまで時間がかかるものだと思います。先ほど挨拶の中で少し申し上げましたが、峰山高校の子がこっちへ帰ってきたいということ。その子は建築の仕事をしたいという女性です。実は本学の建築は、半分近くが女性です。大体 100 名くらいいるのですが、半分以上が女性です。今、建築業界も女性を受け入れている会社がすごく多くなってきて、3 年次の後半、来年インターンシップをこちらで行うことになっております。インターンシップの受け入れ先を色々交渉しております。30 人ですので、30 箇所あればいいのですが、学生とのマッチングをしてもらいたいということもありますので、もう少し探して、それで是非考えて頂きたいのが、魅力ある企業になっていただきたいということです。例えば女子トイレがすごく綺麗ということですね。そういった点だけでも、会社の良さが出てきます。やはりトイレは今までのような作業場のトイレでは全然ダメです。現場に行けば仕方がないですが、事務所としてトイレはすごく女性が使いやすいもの。今、男の子もそうですが、洋式のトイレが当たり前なので、これが無いところは、それだけで敬遠されてしまいます。大学のトイレもどんどん洋式のトイレに代えている状況なのです。そ

ういった事も先取りしてやっていただくと、この会社は綺麗だなという印象を持ってもらえると思いますので、是非そういったところもやって頂くと有り難いなと思います。山崎様は、建設業協会ですので、そういったことも踏まえて皆様にご鞭撻頂けましたら有り難いなと思います。他にどうでしょうか。時間もないのですが、あと1名くらい。

森本委員：小規模多機能自治の調査研究に今年度77万円ついておりますが、この中身の説明をお願いします。

森迫委員長：これは事務局側からご回答をお願いします。

川口次長：これからの地域づくりに向け、職員・地域の方を対象にセミナーを開催し、新たな組織作りや運営について研究するものだという事で、講演会の開催経費が28万5千、セミナーの開催経費が9万3千円、先進地視察の経費が28万5千円、地域づくり研修ということで小規模多機能自治推進ネットワーク会議ということで11万1千円、ということで合計77万4千円という予算としております。

森本委員：それに関連しまして、色々なひとづくりがあるのですが、自治会が、婚活とか若者の交流、都市との交流、空家対策でツアーを組むとかそういった事業をやっています。小規模多機能自治ということは、これからそういった事は自治会がやっていった方がいいと思うのです。つまり市、行政が行っている部分で予算化されているのですが、自治会で出来ることは自治会に任せてやっていったらどうかということで、自治会に予算を入れて頂いて、積極的にそういった取組をしているところ、小規模多機能自治に近いような組織については、モデルにさせていただくようなことですね、例えば私が今所属しております、佐濃自治会はこの形で、すでに5年前から婚活活動をやっております、すでに200名近く集めて、カップリングだけでも今20組くらいできています。残念ながらまだ結婚までは至っておりませんが、すぐそこまでいっております。市の補助も頂いているのですが、そういったところに積極的に任せていく形をとった方が望ましいのではないかなと思っております。そういった事をする事によって、地域が元気になる。地域自体が、婚活の例を挙げますと、独身者が結構おられるわけです。男女含めて、一番把握しているのが地域ですので、こういうことをやったらどうかということで自ら考えて、新しいコミュニティー事業など今度こういう人を呼んできたなら面白いねとか。一番必要性を感じ、情報を持っているのが自治会ですので、そこが行う取組みを後押しする予算を付けていただきたいです。そうすれば、市内の自治会にももう少し動きができてくるかなと思います。

森迫委員長：ありがとうございます。是非また参考にして頂ければと思います。それは時間の都合もありますので、資料3の28年度と27年度繰越事業もありま

すが、KPI というのはいわゆる指標なのです。項目と目標を立ててどこまで出来たかということが書いてありますので、その説明を事務局からお願い致します。

近藤統括官：【資料 3「京丹後市まち・ひと・しごと創生総合戦略（K P I）進捗管理表」の説明】

森迫委員長：ありがとうございます。ただいま御説明がありました進捗管理表ですが、KPI というのはパフォーマンスインディケーターという、いま流行っているものでして、大学でもこういった形をとっておりますが、要は施策と目標を掲げてそれが毎年きちんとできてくると最終的には目標が達成されるだろうということです。ただ漠然と歳出しているだけですと、どうやっていいかということがよくわからないので、こうやってまだできていないところはどこかということ把握すること、またその目標を達成するために何か一つ考えてそこに施策を打つてと言うことをすれば最終的には目標に達するのではないかなというものでして、こういったやり方がございます。ご説明にありましたが、まだまだこれからという部分もいくつかあると思いますが、何か御意見等ありましたらお願いします。

森本委員：観光のところですが、宿泊が全体を見ているわけですね。宿泊が少ない要因はどのようなことを考えておられますか。ただ近くなった、日帰りができるようになったということだけで分析されているのか。そうではなしに、もっと違う面を私は考えているのですが。逆に僕は、4、6、9、10月の入込客が少ない。特に僕は6、9の数値を重視して見ているのですが、そこについての対策は何かあるのでしょうか。例えば、修学旅行を誘致するとか、福井県安佐町辺りには修学旅行に行くのです。岐阜県や愛知県で体験型の修学旅行をさせて、ここが定着しているということと、宿泊が少ない原因については、旧 6 町がばらばらになっていて、線でしか結ばれていないのではないかなと思っております。例えば私は久美浜ですが、久美浜は結構あります。ジオパークやかぶと山があったり、久美浜湾だったり、次にここを宿泊にして、次に網野にいくとか丹後町にいくとか、この辺の良い周遊ルートが形成されていない感じがします。ここがバラバラになっていまして、だから例えば久美浜湾で修学旅行を誘致するならカヌーの体験、オリンピックの関係でも京丹後にはカヌー関係の人が来ますよね。今までは漁業権があつてできなかったと言われていたのですが、それをカヌーで体験させることによって、福井県にはないこちらの魅力がでてくるかなと思っておりますので、そういった事も考えて頂きましたら、もっと宿泊は増えてくるし、特に6月9月が一番少ない時期ですので、この時期に修学旅行をやったらどうかと思っております。

新井総括監：今ご指摘頂きましたすべてのことは我々も認識しております。更に言えば、

実は宿泊業者でカード決済ができないとか、基本的に現金を持つ方々が非常に少なくなってきたので、そういったカード決済を取り入れておられる宿泊事業者が少ないことも要因としてはあると思いますし、今、海の京都DMOでこういった点を線をつなぐような、また、体験型観光もPRさせて頂こうとしております。

森迫委員長：よろしいでしょうか。16時に近くなっておりますので、最後1名よろしくお願ひします。

芦田委員：私達農業団体としては、観光や地元のPRという部分になりますと、今年、京丹後梨を台湾に輸出したということがあります。久美浜や網野の各農業者の方、個別では海外に目を向けられて販売されているということは、当然承知をしているのですが、私たちJAから輸出していくということになりますと、やはり数量をそれなりに持っている強みがあり、梨15t余りを輸出したということでもあります。その中で、当然丹後のPRもしていきたいという事も考えていたのですが、うちも財政が厳しい部分があるという中で唯一実施できたのが、果物にシールを貼ってお送りしているのですが、今年は海の京都のシールを使わせていただいたということです。しかしながら、台湾は比較的赤い色が好まれるという中、シールは黒だったということもありまして、色々なご指摘を頂きながら実施してきました。来年は、できればそういった形で京丹后市様と一緒に海外にPR出来るようなことをしたいなど。それからもう一点紹介だけさせて頂きませんが、このうまいっ茶の原料は丹後のお茶ですが、この茶葉が海外に流通する道筋がたったということで、3年ほど前から、輸出に対応できるお茶の生産をとということで京丹后市農政課の担当者、京都府の農業改良普及センターの担当の方、それから私どもの上部団体である全農でタッグを組んでそういった方向に大きく舵を切っていった。当然生産者のほうの努力も当然あるのですが、それがやっと3年経って、ある程度の量を見込めるようになってきたということで、まだ固有名詞はいえませんが、大手の飲料メーカー2社がアメリカのほうで、日本のお茶文化を発信するお店をオープンされるということがあります。そこに京丹後のお茶を使っていただくことになったということで、今年の春からその会社との契約と言いますか、カメラマンがこちらに入ってこられて、お茶の摘採だったり、作業風景、製造風景を写真に収められる、それから丹後も色々な部分で風光明媚なところがありますので、地域の風景も収めていただいたということで、おそらく2月くらいにお店がオープンするということです。そのHPだったり、お店で風景の動画が流れていくだろうと思いますが、インバウンドという部分が基本になって施策打たれていると思いますが、海外に向けて発信という部分を他の地域で色々な事例も挙げられていますし、動画を見て観光客が増えたとかそういった事例は増えてきておりますので、

そういった部分のお手伝いも色々な部分でできるかなと思っております。僕達、カメラマン様が作った動画を見せて頂いたのですが、KTRの列車も綺麗に写っています。肖像権が問題になる部分もあるだろうと思っているのですが、そこら辺もお願いしていかないといけないかなと思っております。そういったことも影で色々動いておりますので、オープンになった暁にはご紹介できるかなと思いますし、品目ごとに生産振興するなど、そういった取組もJAを通じてやらせて頂いております。今後、何らかの事業を中で、一緒に頑張っていけることがあれば、お手伝いもさせていただければと思っております。

森迫委員長：ありがとうございます。御意見はまだあるかと思いますが、時間の都合もございまして、今出た御意見等も踏まえてPDCAサイクルを回していただいて、総合戦略が最終的に実を結ぶことを祈っておりますので、今後、毎年開催になると思いますが、宜しくお願い致します。議事は以上でございまして、事務局から連絡事項等ございましたら、宜しくお願い致します。

近藤統括官：本日は貴重な御意見ありがとうございました。本日頂きました御意見につきましては、来年度の人口減少対策の方にも反映していきたいと思っておりますので、是非宜しくお願い致します。あと、京丹後市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会につきましては、総合戦略の推進と検証の意味も含めまして、毎年1回開催したいと思っておりますので、来年度以降もどうぞ宜しくお願い致します。以上でございます。

新井総括監：それでは、森迫委員長ありがとうございました。以上を持ちまして、第1回京丹後市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会を終了させて頂きたいと思っております。本日は長時間、大変お疲れ様でした。ありがとうございました。